

教育長 殿

宮城県泉高等学校
校長 青山 勝

印

令和2年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

1 学習指導	① 基礎・基本の定着と、授業の質の向上(生徒の思考力・判断力・表現力を高める授業やICTを活用した授業)による授業改善と生徒の学力の向上を図る。 ② 自学・自習の主体的な学習態度を養い、家庭学習習慣の確立と内容の充実を図る。
2 生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立と、他を思いやる心、勤勉奉仕の精神を育む教育を推進し、共生社会に生きる生徒の資質を高める。 ② 規範意識の醸成に努め、事故や盗難等のない安全安心な学校づくりに努める。 ③ 挨拶や端正な制服の着用、交通ルール遵守等、地域社会から評価される態度と整容を身に付けさせる。 ④ 部活動、学校行事、生徒会活動等へ積極的に取り組ませる。
3 進路指導	① 面談等を通して自己理解を深めさせ、自己の生き方を主体的に探究する「志教育」を推進する。 ② 生徒の自己実現のために、3年間を見通した系統的・組織的な進路指導の一層の推進に努めるとともに、全教員が最新の進路情報を取り入れることができる研修の機会を設ける。 ③ 国公立大学や難関私大等に現役合格できる柔軟な頭脳と第一志望を諦めない強い意志を養う。
4 保健衛生・安全教育・防災教育	① 生徒の心身の健康保持と体力増進を図る。 ② 交通安全の意識高揚(特に自転車通学マナー)を図り、事故の未然防止に努める。 ③ 防災教育を通して日常の安全点検や避難訓練の充実を図り、地域社会と連携して危機的状況にも対応できる学校を目指す。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 基礎・基本の定着	B	今年度は一斉休校があったため、前期末には予定時間数の80%程度の授業時数となった。みやぎ学力状況調査(7月実施)においては、授業が分かる割合が1年66.7%(昨年63.4%)、2年68.9%(昨年64.4%)となり、一定の成果が得られた。今後は休校になった場合の学びの保証についてさらに方策を考えていきたい。	B	A
	② 授業の質の向上	B	今年度は、研究授業を7回、校内研修を2回実施し、授業の質の向上に努めた。今後はこれらの取り組みを有効活用し、特にICT活用によって生徒の思考力、表現力を高める授業を目指していきたい。	B	A
	③ 家庭学習習慣の確立	B	みやぎ学力状況調査において、家庭学習時間平日2時間以上の割合が、1年30.5%(昨年22.5%)、2年24.1%(昨年22.5%)と改善された。課題や個人面談等を通して、さらに家庭学習時間の増加を促していきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		・コロナ禍で一斉休校があったり、ICT活用が迫られたりする中で、教職員が授業の質を低下させないような努力・工夫を重ねたことがうかがえる。生徒の多様性や家庭事情等に対する配慮も行き届いていた。 ・③について、授業日数が減る中、時間を確保できたことは、先生方の熱意・工夫のたまものだと考える。家庭学習時間の現状は把握できているので、問題を見出し課題を設定することが必要だと思う。 ・通常から7時間授業を実施している学校がある中、泉高生の家庭学習時間が少ないように感じる。授業時間を増やすよりも自主的な勉強を重視する方が良いと考えているが、進学校にしては学習時間が足りないように感じる。進路指導を充実させ、全体的に学習意欲を向上させることが必要と考える。より高い目標をもたせて努力させ、生徒の可能性をさらに引き出してほしいと思う。			
生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立	B	生徒対象アンケートにおいて、生徒の95.1%が遅刻をしないように心がけ、96.9%がいつも挨拶をしているとの回答が得られた。これまでの指導は一定の成果があったと考えられる。日頃の指導を大切にし、生徒の自覚が行動につながるよう努力する。	A	A
	② 規範意識の醸成	B	新型コロナウイルス感染症の影響で、ケータイ安全教室(1年)を中止とし、集会での注意喚起もなかなか行えない状況だったが、大きく崩れることのない1年だった。毎月行う学校生活アンケートなどをとおして継続的に指導していきたい。	A	A
	③ 特別活動への積極的な取組	B	新型コロナウイルス感染症の影響で、大会・行事など中止となるものが多いなか、教職員の協力により概ね達成できた。	B	A

学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で行事等の特別活動に制約がある中、教職員の尽力により基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成に関しては概ね良好な状況が保たれたと言える。保護者からの評価はやや厳しい様子もあったが、これは「コロナ以前」特に保護者が高校生だった時代との比較によるものと推察される。 ・①について、良い点の振り返りを行い、次の行動を考えるのがよいと思う。②については、アンケートの項目に注意してほしい。設定の仕方、結果を誘導することもできてしまう。生徒指導については、当たり前のことを当たり前に行えるように、繰り返しの指導が必要であると思う。 ・基本的な生活習慣及び規範意識等は、先生方の日々の継続した指導により概ね良好な状況であると捉えている。挨拶については、校外（学校周辺地域）でも励行し、泉高生の良さを発信し、泉高のさらなるイメージアップを図ってほしい。いじめ防止対策については、方針を明確に示し、生徒はもとより保護者の理解・協力を得ながら、いじめ撲滅に努めてほしいと思う。 			
進路指導	① 自己理解と志教育の推進	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパスや夢ナビライブなど、外部に出かけての進路探求活動が軒並み中止となり、多くがWEB実施となった。直接生徒が見聞きして自己の進路について考える機会が減り、特に1、2年では進路について真剣に考える機会を提供することができなかった。	B	B
	② 系統的・組織的な進路指導の推進と研修の設定	B	FINEシステム登録の教員の数が大幅に増加した。担任はほぼ全員活用している。生徒の模試情報の活用（デジタルサービス）も定着しつつある。一方、保護者対象進路説明会が中止になるなど、保護者に対する進路情報の発信が不十分であった。	B	B
	③ 高い進路目標を達成できる柔軟な思考と強い意志の養成	B	進路目標の明確化に向けた指導は、①同様コロナ禍の影響により不十分とならざるを得なかったが、一方で外部実施予定だった模試がすべて校内実施となり、模試を通じた進学指導は例年より徹底でき、共通テストにおいて国公立大学に対応する900点満点受験者数が42名増加した。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のためオープンキャンパス等が中止されたことに加え、大学入学共通テストへの移行に伴う課題もある中、適切な対応がとられたものと考えられる。 ・「適切な進路指導」について、生徒と保護者で10ポイント以上の差があるので、保護者への情報発信方法に工夫が必要だと思う。 ・コロナ禍にあり進路指導が予定通り進まなかったようだが、オープンキャンパスや大学説明会への参加率が年々高くなっているように思う。生徒への学習意欲を喚起する上で、とても良い傾向にあると捉えている。また、キャリア形成に向けて「夢ナビライブ」等は有効であると考えられる。今後、感想文を提出させるなど、全員に参加させる手立てが必要であると思う。 			
保健・安全・防災	① 健康保持と体力増進	B	学校評価において「学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる」という項目に対し、生徒では92%、保護者では88%が肯定的な捉え方をしていることから、概ね達成できているものと思われる。今後も継続して健康の保持増進に努めたい。	A	A
	② 交通安全意識の高揚と事故発生の未然防止	B	今年度の交通事故報告は1月末時点で18件あり、自動車関係する事故10件、自転車どうし3件、人との接触2件、自損事故が3件であった。事故後の対応についてはいずれも適切に処理されていた。学校生活アンケートのなかで定期的に交通ルールについてのアンケートを行い、交通ルールや自転車乗車マナーについて、気づき、考えてもらうことで交通ルール遵守や自転車乗車マナーの向上につなげていきたい。	A	A
	③ 防災教育と避難訓練の充実	B	コロナ禍の影響で多くの行事が中止されたが、予定していた2回の避難訓練はコロナ対策を取りながら実施することができた。しかし、震災から10年が経ち、防災への備えが薄れてきていることも事実である。防災行事を活用し、災害に対する意識の啓蒙を図りたい。地域防災に関しては、将監西小学校区避難所運営委員会や防災訓練が中止となり、連携を推し進めることができなかった。次年度は地域と積極的に関わり、地域防災の一翼を担えるように備えていきたい。	B	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・防災関係の活動には大きな制約があったが、保健・安全関係に関しては状況に即した的確な活動が行われたと言える。 ・①について、何が良かったのかを分析すると良いと思う。交通安全・防災については、繰り返しの意識づけが必要だと考える。継続して取り組んでほしい。歩道の通行の安全確保に向けた除雪作業に感謝している。 ・健康観察、衛生環境の整備等、コロナ禍においては、日常的な点検活動等に努めることは大事なことで捉えている。防災教育については、震災後10年という節目に当たり、風化させないためにも、HR等を使って、命の大切さを生徒に考えさせる機会があってもよいと思う。 			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 基礎基本を確実に定着させるための学習指導	「ICTの効果的な活用」をテーマとして校内研究授業を実施し、生徒に基礎基本を定着させるための授業改善を推し進める。また、新聞を活用した探究活動をおし、課題を発見する能力、その課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、生徒の活躍の場を提供することで主体的に学習に取り組む姿勢を養う。

<p>② 進路目標の明確化に向けた適切な進路指導</p>	<p>生徒に対しては、オンライン開催の「夢ナビライブ」やオープンキャンパス、大学説明会などを積極的に活用し、早い時期に進路目標を明確化するように促す。保護者には、保護者進路説明会、三者面談、進路だよりなどで最新の進路情報を提供し、大学入試をはじめとした進路を取り巻く状況への理解を深めていただき、生徒の進路目標達成に繋げる。</p>
<p>③ 地域社会との連携強化と交通安全意識の高揚</p>	<p>本校の防災訓練に地域の避難所運営委員に参加していただいたり、本校生徒が地域の防災訓練に参加するなど、防災・減災に向けた活動とおして地域との連携を深める。また、登下校時の自転車乗車マナーを向上させるために登校指導を強化し、同時に生徒の交通安全意識の高揚を図る。</p>